

議員の定数は人口だけで決めるのでよいのでしょうか？ 市議会議員の定数削減条例は否決

12月定例会市議会は17日、本会議を開き民生福祉常任委員会に付託されていた「沼田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例」についての委員長報告がおこなわれ、全会一致で可決されました。

つづいて人事院勧告に基づく職員の給与改定の条例改正と、それに伴う一般会計と特別会計の補正予算が提案され、採決がおこなわれました。

最後に大島議員から議員定数を1人減らす条例改正が提案され、金子議員から議員定数を2人減らす修正案が提案されました。

人口減少と区長会からの申し入れなどが議員削減の理由でしたが、市民の声や多様な意見を市政に反映させることが議会には必要で、議員の数を減らすことは市民の声が市政に届かなくなるだけです。

11月29日に開かれた議会運営委員会では、議会改選後に議員定数や議会の運営などを検討する特別委員会の設置が決められていました。

市民の願いにこたえくらしを支える新年度予算の編成を

一般質問で大東議員は、市民の願いにこたえ市民のくらしを支え、満足度を高める新年度予算の編成を求めました。

市長は、「すべての市民が生涯にわたり健康で生きがいを感じながら幸せに暮らせるよう、きめ細かい事業に取り組みたい」と答えました。

大東議員は、重ねて市民が安心してくらすための新年度予算編成を求め、市長は「努力したい」と答えました。



消費税増税中止を求める請願は継続審査に

12月定例会市議会に沼田民主商工会（林正男会長）から提出された「国に対し消費税増税中止を求める意見書の提出を求める請願」は、11日に開かれた議会運営委員会で審議され継続審査となりました。

大東議員と高柳議員は、請願の採択を求めましたが、他の議員からは、「食料品の非課税もわかりづらい、さらに調査が必要」といった意見が出され、さらに調べる必要があるという意見が多数出され、請願は継続審査となりました。



川をいかした景観づくり 三島市の視察報告

静岡県三島市は、古くから東海道の宿場町として栄え、人口111,000人の北伊豆地域の中心都市で、富士山の湧水が市街地を幾重にも流れ、古くから「水の都」とよばれ、「街中がせせらぎ」事業として、一時よごれていた川を整備し、川をいかした景観整備が平成13年度～17年度にかけておこなわれました。

総事業費は、13億6,700万円で、石張りの道、案内板の設置、河川の整備がおこなわれ、市民協働により河川の清掃などがおこなわれ、街の顔としての景観づくり、市民の憩いの場として親しまれていました。

2018年12月23日

NO. 591

日本共産党 大東のぶゆき議員活動地域後援会ニュース

やまびこ

発行所 沼田市下久屋町983 Tel.23-1519 部内資料



沖縄防衛局は、工事の実施設計を示さず、土砂の採取場所も明らかにしないなど、2013年の埋め立て承認の条件にされた「留意事項」にも反しています。土砂投入の強行は、9月の沖縄知事選で示された「新基地建設反対」の民意を切り捨てるだけでなく、違法に違法を重ねた蛮行です。

こんにちは。沖縄県の玉城デニー知事が菅官房長官らに辺野古新基地建設工事の中止と真摯な協議を申し入れたのに安倍首相は、辺野古沿岸部への土砂投入を強行しました。辺野古新基地建設は、沖縄県が8月、辺野古沿岸部の埋め立て承認を撤回し、工事は法的根拠を失い止まっていますが、国の機関が適用されないことも明記されている行政不服審査法を悪用し、沖縄防衛局が県の承認撤回に対する審査請求とその裁決までの執行停止を石井国土交通大臣におこない、石井国土交通大臣による執行停止の決定を受け、11月から工事の再開を強行し、今回の土砂投入という暴挙に至りました。

こんにちは 大東のぶゆき です



続ぶらり散歩 めまた道 利根町あれこれ 特別編その三 星野房吉

星野房吉は寛政3年（1791）に現在の渋川市赤城町深山の名門須田家に生まれ、幼いころから祖父に兵法を学び、医者をしていた父から医術を学び、さらに絵、書も学び、ついには師匠にも勝るといわれるようになりました。



房吉が最も熱心だったのは剣道で、寸暇を惜しんで研鑽し、2年で師の祖父を凌いだといわれ、榎本法神の妙技に感服し法神に入門し修業に励み、大洞の赤城神社、鈴ヶ岳、黒檜山などに籠り水行、木食、断食など千日の苦行をやり遂げ、その極意を極め、免許を受け継ぎ、法神流二世となりました。

房吉の名声は高まり、前橋、江戸にも道場を開き、隆盛を極め、関東にその名がとどろきましたが、文政11年（1828）の夜14～5人に襲われ、相手に傷を負わせたことから、故郷の深山に帰り、追貝の星野家に婿入りしました。

追貝でも道場を開き、利根・勢多にその名声が広がり、平川不動尊に額（写真下）を奉納しましたが、天保2年（1831）に房吉の名声を妬んだ園原の中澤伊之助が師匠の山崎孫七郎を呼び寄せ、房吉を謀殺しました。



これが園原騒動で、房吉の墓（写真上）は、追貝にあります。